

●白州だより

2011年4月20日
二十四節気 穀雨
発行 白州郷牧場
山梨県北社市白州町横手 2259
TEL: 0551-35-4520
FAX: 0551-35-2970

白州郷牧場からの春のおたよりをお届けします! <http://www.hakusyu.jp/> info@hakusyu.jp



白州の桜 (2011.4.13)

1 様へ

椎名盛男

あの震災から一ヶ月が経過した。事態は混乱が迷走しているだけで、拡大している。私たちの常識が思い込む程国家はしっかりしてなかったし、共同幻想でしかなかったことを思い知らされている。政府はメルトダウンを起こしてしまった。不作為の作為というよりは、無分別からくるメルトダウンである。次の日にはバレル嘘を繰り返し、恬(てん)として恥じない。このままでは、政府自体が再臨界を起こし、国民は奈落に突き落とされるだろう。それによって、東北は壊滅的状况に追い込まれるかもしれない。

いずれにしろ、私たちは、「3.11」以前には戻れない。戻れないけれど生活は続くわけである。原発と高エネルギー社会の「是非」はすでに答えは出ている。問題は「問い」であろう。低エネルギー社会の技術と生活の在り方だろう。けれども、何もかも、

私たちは電気の「畏」から逃げられない。東京一極集中は解体する。また、させねばならない。しかし、どう解体し、どうするのかという問いには答えられないでいる。私たちは回答を見つけなければならぬし、地方の小さな村に典型的なモデルを創出しなければならぬのだろう。

天寿を全うすること

振り返ってみれば、原発の代わりに私たちは自分と子供たちの健康を差し出したのだ。便利な電気システムに健康と未来を差し出したのである。天罰といってしまうと、それまでである。私たちの近代幻想は完全に虚を突かれた。そして、狼狽している。

原発推進のプロセスの中で、良心的な知識人は迫害され、内向的になり、自閉していったようである。私たちは今回、そういう人達をはじめ、目の当たりにしている。それほど思考停止状態で、当たり前

のこととして原発のある暮らしを受け入れていたのである。そして、健康と財産のどちらが大切かわからない国民になったのである。

54基の原発から低濃度と称される放射能が毎日吐き出され、周囲を被曝させ続けている。汚染水も放流され続けている。一年365日である。日本列島は、被曝列島である。

日本の何処に、住み、暮らそうと安全地帯などないし、安心できる魚介類もない。「風の谷のナウシカ」の世界は現実味を帯びているのかもしれない。



300年の闘い

吉本隆明先生は「考えに考え抜いている」という。養老孟司さんは「『答え』は出ている。問われているのは『問い』」という。専門家は「廃炉」にするにしろ300年かかるだろうという。私たちに問われているのは、投げやりにならず、敗北主義にならないことだろう。地球の空も海も山河も、一企業のためにあるの

ではない。我々の海であり、我々の空であり、我々の山河なのだ。何百年もかかると脅されても「神のものは神に、自然のものに返す」しかない。徹底的に「ローカル」に考え、行動するの時のように思います。

あなたの暮らすところは、低濃度汚染地域でしょう。そして、答えはNHKスペシャルで放映された「汚染された大地」で既に出ています。死ぬ日まで生きられるわけだから、共に行動しましょう。

子牛がまた産まれました



子牛が産まれました。農場で生まれた子牛が子を産み、母になりました。待望の牝牛です。

日本の畜産は、外国からの穀物飼料によって成立しています。国産と呼べるものは「水」くらいです。養鶏を軸とする有畜複合農法をいつまで続けられるのか、不安です。外国依存体質になった日本の畜産が、国産へと脱皮できるのは生易しいことではありません。

私たちは、和牛へと少しづつ転換しようと考えています。遅々とした歩みになりますが、「愚公山を移す」の精神でやっていくしかありません。

「被災地支援について」 秋山 澄兄

白州郷牧場では東日本大震災の被災地支援を次の通りに行いました。取引先でもあり、BM技術を通しての仲間でもある、「あいコープみやぎ」へ、被災された組合員さんへの支援物資として「ごぼう」を300kg、九条ネギを300パック、卵を1000個送りました。また、BM技術協会の呼びかけのもと、「あいコープみやぎ」のセンターで4月22日に行われた、炊き出しにも参加しました。（この内容は別記事にて報告します。）実際にこの目で見る被災地はテレビや写真で見るとは大きく違い、そのダメージの大きさが計り知れないものだとことを実感しました。

なお、引き続き水の支援は続けています。先日も、パルシステム連合会からの依頼により、シャプラニールから要請のあった水5tを支援物資として福島へ送りました。首都圏を中心に各家庭にも水の供給支援を行っています。

「新しいエネルギーへの転換」

～山梨大学・北杜市包括事業から 秋山 澄兄

3月11日に起こった東日本大震災において、福島の原子力発電所による放射能問題は未だ何の友好的な解決策も見つけられず、私達の不安は拭いさられることはありません。白州の100km南には「浜岡原発」があり、いつ起こっても不思議でない東海地震が起きれば、白州のみならず首都圏は大変なことになることを想像しただけで眠れない夜は続きます。

さて、昨年より山梨大学と北杜市、そして白州郷牧場の三者包括事業の取り組みが始まっていることは、以前の白州だよりにおいて報告させて頂きました。主な内容は、「地域未利用資源をエネルギーに変えていく、自然環境保全型のエネルギー確保」です。昨年度は準備期間としての活動が主でしたが、



「メタン発酵」の実験

今年度は2年目に入り、より具体的な設備の設置と検証が行われようとしています。畜舎（鶏・牛）から出る糞に地元のワイナリーから出る葡萄の搾りカスと生ごみ等を混ぜ、メタン発酵させバイオガスを抽出します。ここまでは、昨今行われているバイオマス事業においては多くみられるものですが、このバイオガスを電源に変えると言う取り組みが今回の大きなテーマになっています。山梨大学の御園生教授がバイオガスを電源に変換する小型バッテリーを導入し、どれだけの電力を取れるかの実験を予定しています。この実験がうまくいけば、原子力をはじめ火力等に頼らない、新しい電力の確保は大きく前進するものと考えています。また、同時進行で行われている「クロレラ培養」の実験ですが、この培養プラントには光合成を促すためにLED電球を用い



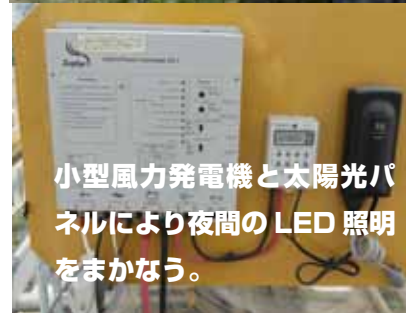
「クロレラ培養」施設

た夜間照明を使用しています。この電源は小型の風力発電と太陽光発電機を設置して電力をまかなっています。現在は日量でどのくらいの電力が取れるかのデータを取りつつ、夜間照明によるクロレラの繁殖率のデータ

を取っています。

震災後のこれからの日本は新しいエネルギー（風力・太陽光、それ以外の未利用資源）の確保が急務ではないかと考えます。はじめに書きましたが、原子力発電はクリーンエネルギーと言われてきましたが、そんなことは幻想にしか過ぎなかったと誰もが身に沁みてわかったのではないかと思います。

白州郷牧場は、その規模としては決して大きくはありませんが、電力に頼らざる得ない仕組みは多分にあります。これらの状況を踏まえると、私達は新しい自然エネルギーの確保への道を歩まざるをえません。反原発・脱原発を唱え、歩むべき道を歩んでいきます。



小型風力発電機と太陽光パネルにより夜間のLED照明をまかなう。



「辛夷（こぶし）の花」

椎名盛男



「明日世界が減ぶとも私はリンゴの木を植える」とルターが言った。

白州の農事をルター流に言えば「たとえ世界が減ぶとも、辛夷の花が咲けば、私たちはジャガイモを植える」となる。今年は山桜も辛夷も一緒に咲いた。しかし、いつもの春ではない。私たちの目には巡ってきた春の花は美しく見えない。

辛夷の花が山桜の花が咲き、私たちは、非日常を内に抱え、農事の日常に戻る季節になった。少しでも多く生産し、食べる人に届けるのが、私た

ち農民の務めだろう。これから、冬が来るまで増産とのたたかいである。原発は廃炉には出来ないそうだ。閉鎖して一万年くらい監視していかねばならない。満月はかけないと思って、国や東電はこれまでやってきたのだろう。もはや、3.11以前はないのだし、今月の事態をBMW技術の試練と受け止め、愚直に有機農業を続けるしかない。

夏野菜の苗づくり

旧暦と経験に学びながら、今年も夏野菜の苗づくりがはじまりました。原発の影響がどんな気候をもたらすのかわかりませんが、今年も昨年並みの苗をつくるだけでなく、余分につくっています。



「安全な水」をお届けします



東日本大震災と福島原発事故の影響で、現在、安全な水が入手困難という報に接しています。幸いに白州郷牧場グループでは二本のボーリング井戸（深さ60m）を持っています。わたしたち白州郷牧場は、水の支援を決定しました。

・山梨県北杜市「おっぽに亭こっこ」に汲みに来られる場合

ペットボトル等をお持ちください。

・郵送の場合

容器代と送料、代引き手数料はご負担くださ

い。

例．（東京地域の場合）450円＋500円＋315円＝1265円

・郵送の注文の仕方

FAX（0551-35-0132）もしくは、メール（info@hakusyu.jp）にて、

1.お名前 2.住所 3.電話番号を記入して申し込んでください。配送日と時間の指定はできません。

水量は、1回の申し込みで20リットル容器1箱とさせていただきます。

